

テレビサブシステムの IP 化を完了 ～未来の放送を支える革新的基盤へ～

2025 年 7 月 29 日 リリース

株式会社熊本放送（本社：熊本市中央区、代表取締役社長・坂口洋一郎、略称 RKK）は、報道制作の中核を担う副調整室（テレビサブ）の全面的な IP 化更新作業を完了し、7 月 7 日から運用に入りました。

今回の IP 化により、映像・音声・制御信号の統合管理を可能とする次世代の放送インフラが構築されました。計画立案から 3 年、約 2 ヶ月半にわたる更新作業を通じて従来の SDI 方式が抱えていた「配線の複雑化」「システムの硬直性」「将来拡張への制約」といった課題を根本から解決し、光ファイバーによる省スペース・省配線化、ソフトウェア制御による柔軟な構成変更、クラウドやリモートプロダクションとの親和性を高めた運用環境を実現しました。

今回の更新では、SONY 製の SMPTE ST 2110 準拠の最新 IP スイッチャーやマルチビューワーなどの機器群と、それを支える高精度時刻同期システムによる確実かつ快適な操作空間は、放送の品質と効率を飛躍的に向上させます。RKK では今後、報道センター等、他拠点の更新にも順次着手予定で、深化する放送技術と柔軟な働き方を両立させた、新しい放送局の在り方を追求してまいります。

なお、このたび高度な技術支援と真摯なサポートをいただいた SONY 社の皆様に心より感謝申し上げます。

本リリースの問合せ先

株式会社熊本放送 技術局



坂口社長（RKK）による火入れ式



テレビサブ全景



SW,モニタ近影